漁業士会活動

平成19年度漁業士九州ブロック研修

水産業改良普及センター　牧野清人

平成19年9月26日、大分県大分市府内町の大分第一ホテルにて平成19年度九州ブロック漁業士研修会が開催された。九州各県から漁業士をはじめ、県の担当普及員等、50名あまりが参加した。最初に基調講演で中央水産研究所水産経済部経営システム研究室の大谷誠研究員により「新規漁業者確保策の現状と課題」と題して講演がなされた。講演では、新規漁業就労者確保策に関する二つの事例を挙げて説明した。漁業就業者は農業や林業に比べ新規就業者の割合が低く、90年代後半以降、新規就業者対策として漁業外部に向けた新規就業の促進に努めているが、未だ十分ではない。その原因として、漁業集落の過疎化等、周辺環境に起因することや、待遇への不満などにより就業しても長続きせず、すぐに離職してしまうケースが多いことなどが指摘された。今後、漁業就業者の確保のためには漁業環境、生活環境の整備など、さまざまな努力も必要であることなどが述べられた。その後、パネルディスカッションにおいて各県の漁業者による担い手確保策についてのそれぞれの考えが述べられた。この中では新規参入漁業者よりも漁業離れによる離職者が多いことが問題となっていた。特に3年以上長続きしないケースが多く、その原因としては、自分の船を持ち、一本釣り漁業等を目的として漁業者になったのに、乗組員としてしか仕事をさせてもらえないなど、理想と現実のギャップなどが挙げられていた。また、新規就労者の伸び悩みの原因として現役の漁業者の奥さんが「自分の子供を収入の少ない漁業者にしたくない」と考えているケースなどもあり、漁業者の平均収入の低さがその根幹にあるように思われた。各県における担い手確保策の事例としては少年水産教室やおしかけ料理教室など、水産業に関する勉強の場を学生に提供する活動や、花嫁対策事業として、都市圏の未婚女性との交流会開催の他、離島再生交付金などの補助金を利用して高齢化、過疎化対策を行っているケースもあった。今回沖縄県代表として出席していただいた名嘉治市指導漁業士には、平成18年度における新規就業状況について説明していただき、漁業担い手確保の問題点や今後検討してゆくべき担い手確保策について述べて頂いた。特に本人の実体験に基づく内容に興味を持っておられる方も多く、モズク養殖の経営について、流通形態、養殖を始めたきっかけ、沖縄県における燃料（重油）費について質問され、特に伊是名でのA重油がリッター90円以上と話したところ、九州各県では60円～70円とのことで、沖縄県内の重油の高さに驚いているようであった。1日目のプログラムは以上で、このあと同ホテルで懇親会が開かれ、この際に九州各県の漁業士同士、ざっくばらんに飲みながらの交流がなされた。2日目は水産庁漁政部水産経営課平野課長補佐による水産白書抜粋「魚食文化を守るために」というタイトルで基調講演がなされた。国内における魚食離れとマグロなどの輸入魚の買い負けが水産業の衰退を促すことが懸念される。今後、魚食普及と食育の積極的な展開と、消費者ニーズに応える産地や流通の改革が急務であることなどが述べられた。その後各県における漁業士会活動についての説明があった。その中で、鹿児島県の養護学校で行われた魚食普及活動や熊本県で一般の方々や小中学生を対象に行われたノリ手すき体験教室等が紹介され、こうした魚食普及活動や体験学習がさまざまな地域で取り組まれるようになっており、沖縄県としても積極的に取り入れていく必要があると実感した。その後、次回開催関連等の事務連絡後、閉会となった。

平成19年度漁業士九州ブロック研修開催

各県漁業士による担い手確保についての説明

中央水産研究所水産経済部経営システム研究室の大谷誠研究員による基調講演「新規漁業者確保策の現状と課題」

パネルディスカッションの様子

名嘉指導漁業士による沖縄県の事例報告

水産庁漁政部平野課長補佐による基調講演「魚食文化を守るために」